

所 報

I. 所員の移動についての報告

引き続き、千葉果弘教授が研究所長を務め、現在、当研究所員は 20 名を数える。

II. 研究所活動報告（1992 年 9 月～1993 年 8 月）

1. 講演会

- ・ 木田宏氏（元文部次官，第二国立劇場理事長）「日本の教育行政」1993 年 1 月 27 日
- ・ 天城勲氏（元文部次官，日本国際理解教育学会会長）「大学の問題と改革—政策の流れを辿って」1993 年 4 月 22 日
- ・ Dr. Joseph DeChicchis (ICU, Tokyo) May 13, 1993
Creating an Orthography: the writing of modern Q'eqchi'
- ・ Dr. Ludo Verhoeven (University of Tilburg, Netherlands) May 20, 1993
"Immigrant Languages in Europe with special reference to Turkish-Moroccan bilingualism in the Netherlands"
- ・ Dr. Mark Williams (University of Leeds, U.K.) May 27, 1993
Endo Shusaku: Relexifying a European genre in Japanese
- ・ Dr. Stephen Murphy-Shigematsu (Temple University, Tokyo) June 3, 1993
Contemporary Okinawan Ethnic Identity
- ・ Dr. John Maher (ICU, Tokyo) June 10, 1993
A psycho-analytic exploration of the 'Mother Tongue'
- ・ Sukigara, Rika and Karamitsu, Noriko (ICU, Tokyo) June 15, 1993
Portuguese Language Maintenance in Japan
- ・ Ms. Noriko Kuramitsu and Ms. Rika Sukigara (Department of English Teaching Graduate School of Education) June 15, 1993
Immigrant Language Maintenance in Japan
- ・ Dr. Chung-ying Cheng (Visiting Professor in the Division of Education) June 15,

1993

Rediscovery of China: Chinese Modernization and Chinese Studies in Japan

2. 研究員

(1) 研究員 I (Research Fellows)

- 1) 影山礼子 国際武道大学一般教育部助教授, 研究課題: W. ジェームズ (William James) の日本的受容の問題—特に成瀬仁蔵を中心として, 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 2) 川津茂雄 国際武道大学一般教育部助教授, 研究課題: 視知覚の研究—視覚探索における探索非対称性に関する研究, 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 3) 鬼頭當子 MK 図書館研究所所長, 研究課題: 国際基督教大学修士論文に掲載された参考文献の分析, 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 4) 小島文英 M.A. (ジョージワシントン大学), 研究課題: 開発と教育, 研究期間: 1993 年 5 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 5) 道又爾 明治学院大学文学部助教授, 研究課題: 大脳半球機能に関する認知心理学的研究, 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 6) Puis Yasebasi Ng'wandu タンザニア大使館大使, 研究課題: Education and National Development, 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 7) 渡部淳 国際基督教大学高等学校教諭, 研究課題: ①日本における国際教育の展開とその教育史的意義, ②社会科教育における教育方法の国際比較, 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日

(2) 研究員 II (Research Associates)

- 1) 足立実絵 国際基督教大学教博士前期課程修了 (教育心理学), 研究題目: 協力を必要とする 2 人ゲーム遊びにおける遊び方略の発達の検討, 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 2) 原和子 お茶の水女子大学理学部, 研究課題: 帰国子女教育—帰国子女の追跡調査 (異文化体験の意味とその影響について, 帰国子女のライフコース調査), 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 3) 服部純子 国際基督教大学修士号 (教育学), 研究課題: 日本南紀三地域における伝統的職業文化, 研究期間: 1993 年 4 月 1 日～1994 年 3 月 31 日
- 4) 上別府隆男 Master's Program in International Management, School for

International Training (米国バーモント州)フルブライト奨学生として在学中,
研究課題: Development and Education, 研究期間: 1993年4月1日～1994年
3月31日

- 5) 萩原美文 国際基督教大学博士前期課程修了(教育心理学), 研究課題: 発達心理学, 研究期間: 1993年4月1日～1994年3月31日
- 6) 柴田協子 国際基督教大学博士前期課程修了(視聴覚教育), 研究課題: コミュニケーション, 研究期間: 1993年9月1日～1994年3月31日
- 7) 塚本美恵子 M.A. (コロンビア大学), 研究課題: Adjustment for new environment, 研究期間: 1993年4月1日～1994年3月31日

3. 助 手

- 1) 岡林秀樹 国際基督教大学教育学研究科博士後期課程, 期間: 1993～1994年度
2, 3学期
- 2) 上別府隆男 Master's in Program in International Management, School for
International Training (米国バーモント州)フルブライト奨学生として在学中,
期間: 1993年～1994年度1学期
- 3) 小島文英 M.A. (ジョージワシントン大学), 期間: 1993年～1994年度3学期
- 4) 寺尾明人 国際基督教大学教育学研究科博士後期課程, 期間: 1993年～1994年
度1, 2学期
- 5) 永田佳之 国際基督教大学教育学研究科博士後期課程, 期間: 1993年～1994年
度1, 2, 3学期

研究室活動報告 (1992年9月～1993年8月)

〈教育哲学研究室〉

1. 人の動き

〈研究休暇〉Prof. Duke, Ben.C. 1993年4月～93年11月

Hedenigg, Silvia 1993年9月副手着任。寺尾明人, Hedenigg, Silvia 1993年3月
副手退任。原田一成, 武藤小枝里, 山口忍 1993年4月副手着任。田中知雄 1993年
9月副手着任。

2. 研究活動

(1) 講演会

- 1992 年 9 月 19 日：岡本明人氏（上武大学助教授）
「言語技術教育について」
- 1992 年 10 月 6 日：Mr. Ng'wandu（駐日タンザニア大使）
「タンザニアの教育」
- 1992 年 10 月 16 日：伊勢崎賢治氏（Foster Plan Kenya 代表）
「アフリカの村落における教育の現状について」
- 1992 年 10 月 31 日：宇佐美寛氏（千葉大学教授）
「教育哲学の方法」
- 1993 年 1 月 27 日：木田宏氏（元文部次官，第二国立劇場理事長）
「日本の教育行政」
- 1993 年 2 月 3 日：前田明永氏（三鷹市教育委員会主任指導室主事）
「地方教育行政の現状と課題」
- 1993 年 2 月 17 日：桑ヶ谷森男氏（ICU 高校校長）
「学校経営をめぐる諸問題－ICU 高校を中心に－」
- 1993 年 4 月 22 日：天城勲氏（文部省顧問）
「大学の問題と改革－政策の流れを辿って－」
- 1993 年 5 月 20 日：原一雄氏（国際基督教大学教授）
「私の教育評価論－個人史を綴りながら」
- 1993 年 5 月 25 日：佐藤幸江氏（UNHCR 駐日事務所広報担当）
「難民と教育」
- 1993 年 6 月 10 日：佐藤国雄氏（文部省学術国際審議官）
「パレスチナ難民に対する UNRWA / UNESCO の教育活動」

(2) 研究会・その他

- 1992 年 9 月 12 日：大学院教育哲学研究室研究会（修士論文中間発表を中心に）
- 1993 年 2 月 4 日：教育学科教育学専攻生卒業論文・大学院教育哲学専修生修士論文発表会
- 1993 年 4 月 10 日：大学院教育哲学研究室研究会（新入生の研究計画・修士論文の中間発表を中心に）
- 1993 年 8 月 3～5 日：第 16 回 ICU 教育セミナー（八王子大学セミナーハウスにて，卒業生教員，学部生，及び ICU 教員が参加）

ベンジャミン C. デューク 教授

Research Activities:

Research Grant (Two years): THE FUTURE LEADERS OF ASIA: THEIR ATTITUDES TOWARD JAPAN'S LEADERSHIP
ROLE IN THE 21ST CENTURY

First Year: Data Collected from China, Philippines, and Thailand;
Field trip to China

Professional Activities:

Study Trip to The United States, England, Ireland, and Germany

Editorial Staff: Japan Journal of Education

千葉 杲 弘 教授

研究活動

国際教育協力及び国際理解教育に関する研究活動

- ① Consultancy to the United Nations Volunteers Service in Cambodia 1992.8.12-24.
- ② Consultancy to the UNESCO PROAP for the preparation of the 6th Regional Conference of Ministries of Education in Asia and Pacific 1992. 8.26-9.3.
- ③ JICA-World Bank Panel Discussion on Higher Education Development 1992. 9.10.
- ④ 第一回 Regional Workshop on Literacy Development
クアラルンプール, 日本ユネスコ協会連盟 1992年11月12日-15日
- ⑤ Support to literacy and education project in Cambodia
UNV Conference Tokyo 1992. 11.25.
- ⑥ フィリピン スタディツアー 1993年7月7日-17日
- ⑦ Consultancy to National Conference on Educational Reconstruction of Cambodia 1993. 7.19-23.
UNESCO, UNICEF, UNDP 基調講演「近年におけるアジアの教育の国際協力の重要課題」

論文・著作

- ①「ユネスコと国際教育」『日本国際理解教育学紀要』 1993 年 3 月
- ②「21 世紀を目指しての世界の教育動向と課題—特に国際理解教育を中心として」
『国際理解』24 号 手塚山学院国際理解研究所 1993 年 3 月
- ③「万人のための教育世界会議」『開発教育』 1992 年 10 月
- ④「大学生のアフリカ諸国に対する意識調査」(共同研究)『教育研究』35 号
- ⑤“Evolution of the Concept and Practice of Environmental Education—Form Tbilisi (1977) to Moscow (1987),”『教育研究』35 号
- ⑥「環境教育の概念と実践の進展—トビリシからモスクワまで」『世界の環境教育』佐島群己・中山和彦編, 国土社, 1993 年 6 月

講演等

- ①「生涯教育—宇宙時代の新秩序の模索」 野村生涯教育センター主催 国際シンポジウム パネルコーディネーター 1992 年 8 月 8 日—10 日
- ②「ユネスコと国際教育の行方」
帝塚山学院国際理解教育研究所 国際理解公開講座 1992 年 9 月 26 日
- ③“APEID: Past, Present, and Future”
Regional Seminar of Experts on Primary Education. 広島大学基調講演 1992. 10.12.
- ④「ユネスコに 30 年勤務して」 目黒ユネスコ協会 1992 年 10 月 2 日
- ⑤「世界の直面する教育の問題」 三鷹市国際市民講座 1992 年 10 月 7 日
- ⑥「国際理解教育: 来し方行く末」
日本国際理解教育学会 パネルディスカッションパネリスト 1993 年 1 月 24 日
- ⑦「国際交流の根底にあるもの」
愛媛県ユネスコ国際交流活動研修会 基調講演 1993 年 3 月 15 日
- ⑧「アジア初等教育」
アジアキリスト教教育基金(ACEF)研修会 基調講演 1993 年 3 月 19 日
- ⑨「文化と国際理解」 自民党女性活動者研修会 1993 年 4 月 19 日
- ⑩「ユネスコと識字教育」 創価学会名古屋 1993 年 4 月 26 日
- ⑪「ユネスコから見た日本の教育」
短波放送 海外子女教育アワー 1993 年 4 月 30 日
- ⑫「ICU のよりよき一般教育を目指して—危機を分かちあう」
ICU 一般教育シンポジウム パネリスト 1993 年 5 月 11 日
- ⑬「アジア太平洋地域における教育協力」 国立教育研究所座談会 1993 年 5 月 14 日
(「国研広報」第 91 号 1993 年 9 月に掲載)
- ⑭「ユネスコと識字活動」 創価学会中浦和 1993 年 5 月 15 日

- ⑮「ユネスコの状況について」 飯田ユネスコ協会 1993 年 5 月 21 日
- ⑯「ユネスコと国際教育」 全国高校ユネスコ活動指導者協議会 教科外活動として
国際理解教育推進セミナー 基調講演 1993 年 6 月 12 日
- ⑰「ユネスコの危機と現状」 国際協力研究会 国連大学 1993 年 6 月 25 日
- ⑱「ＩＣＵにおける国際教育」 ＩＣＵ教育セミナー 1993 年 8 月 4 日
- ⑲ 基調講演：“Continuing Education in a Post Industrial Society: A Case of Japan.”
UNESCO Regional Meeting on Continuing Education, Chiangmai, Thailand.
1993. 8.16-21.
- ⑳「識字教育と世界平和」 ユネスコ北海道ブロック大会 基調講演 1993 年 8 月 29 日

そ の 他

- ① 日本ユネスコ国内委員会委員
- ② 同アペイド・アピール分科会主査
- ③ 日本ユネスコ協会連盟理事
- ④ 日本ユネスコ協会連盟国際協力委員会委員長
- ⑤ 日本国際理解教育学会理事
- ⑥ 野村生涯教育センター顧問
- ⑦ 中華人民共和国吉林省教科文国際活動センター顧問

立 川 明 準教授

研究活動

平成 5～7 年度の文部省科研費総合研究（Ａ）「アメリカ多元文化社会における国民統合と教育に関する史的研究」（研究代表者中村雅子桜美林大学講師）に、研究分担者として参加。7 月中旬からはウィスコンシン大学マディソン校において、19 世紀から 20 世紀にかけての米国大学史を中心に研究を進めている。

学会参加

5 月 19 日から 24 日まで中華人民共和国北京市において開催された International Symposium on Contemporary Moral Education に、Dr. Chung-ying Cheng 本学客員教授と共に参加した。

著 作

- ① 「「階級」「地域」「大学」を考える」『多摩学会』 4・5, 1992, 8-15 (但し筆者による校閲を経ていない講演記録).
- ② 「ICUキャンパスでのコミュニケーション」『大学時報』 227, 1992, 36-41.
- ③ “The Real World of Japanese Education,” History of Education Quarterly, (US), XXXIII, 1 (Spring, 1993), 85-90.

林 昭 道 助教授

研究活動

- ① 近代ヨーロッパにおける教育の基本概念の成立のプロセスを, 特に, 18～19世紀のドイツを中心に追う。
- ② エドアルド・シュプラランガーの教育哲学・思想の検討

著 作

シュプラランガーとゲーテ, 村田昇編著『シュプラランガーと現代の教育』所収, 近刊。

町 田 健 一 助教授

研究活動

- ① 義務教育レベルにおける私立学校調査：
 - ・建学の精神とその取り組みの歴史
 - ・その他の研究実践
 - ・一貫教育の意義とその効果の是非
 - ・寮教育の意義とその効果の是非
- ② 教育課程の革新とその実施に関する研究
- ③ 数学教育研究
 - ・数学教育の目標論
 - ・問題解決学習における言語の役割
 - ・コンピューター教育の目的と問題点
- ④ 生徒指導に関する研究
 - ・道徳教育における教育哲学と問題点
 - ・性教育における教育哲学及び教育内容

学会参加・発表

- ① 日本教育心理学会 第34回大会（信州大学）1992年10月1日～2日
- ② 日本数学教育学会 第25回教育論文発表会（岡山大学）1992年11月15日
- ③ 日本キリスト教教育学会 第5回大会（西南学院大学）1992年5月22日
- ④ 日本数学教育学会 第75回大会（大津市）1992年8月4日～6日
中学校・学習指導法部会 発表「ノート指導による効果的な内言形成」

研究論文

「ノート指導による効果的な内言形成；数学科における問題解決過程の研究」日本数学教育学会誌 第75回総会特集号 Vol. 75 p. 353 1993. 8

その他

- ① 講演「寮教育の目的とリーダーの役割」三育学院短期大学主催 リーダス トレーニング セミナー（於三育学院短期大学）1992年9月28日
- ② 講演「リーダーシップ：目標達成機能と集団維持機能」三育学院短期大学主催 リーダス トレーニング セミナー（於サット・グランド・ホテル）1993年4月1日
- ③ ICU 教育セミナー世話人 1992年4月～
- ④ 第15回 ICU 教育セミナー 参加及び発表（於八王子大学セミナーハウス）
「これだけはおさえたい性教育の重要項目」1993年8月3日～4日

永田 佳之 副手

研究活動

教育分野における国際協力に関する研究活動

- ① タイおよびインドにおける現地NGOの教育活動に対するモニタリング・評価調査実施（1992年12月20～1993年1月9日）
- ② International Consultative Forum on Education For All - Second Meeting（1993年9月8日～10日）および Education For All NGO Network Meeting（1993年9月7日～11日）参加。

学会発表

- ① 「大学生のアフリカ諸国に対する意識調査」（共同研究），日本国際理解教育学会，（国連大学本部），1993年1月24日

- ②「タイにおける新教育思想・理論の可能性ー A.S. ニールの教育思想・理論と子ども村学園の教育実践を例に」, 日本比較教育学会, (愛知淑徳短期大学), 1993 年 6 月 19 日

論文・著作

- ①「大学生のアフリカ諸国に対する意識調査ー I C U における『発展途上国』の教育実践」, 国際基督教大学学報「教育研究 35」, 1993 年 3 月, 265-303 頁。
 ②「第一回世界寺子屋運動モニタリング・評価調査報告書」, 日本ユネスコ協会連盟。

講演活動

- ①「国際理解とボランティア活動ー世界寺子屋運動と現地での状況」
 甲府ユネスコ協会, 1993 年 6 月 5 日
 ②「識字と先住少数民族」
 柏ユネスコ協会, 1993 年 7 月 17 日

その他

日本ユネスコ協会連盟 国際協力委員会 識字専門協力員

原 田 一 成 副手

研究題目

私立高校経営

著作・論文

- ①「現代における私立高等学校経営に関する考察ー第2次高校生生徒数急減期における私立高等学校経営の問題ー」(修士論文)
 ②「戦後私立高校経営史 試論」
 (財)日本私学教育研究所 調査資料 182 「私立高校経営の研究(4)ー私学財政研究会報告ー」 P.P. 57-90 収録

その他

(財)日本私学教育研究所 私学財政研究会会員

〈心理学研究室〉

1. 人の動き

(1) 学内人事

1992. 9～1993. 8 栗山容子準教授, ディヴィッド W. ラッカム準教授, 研究休暇。

1993. 4～1994. 3 小谷英文準教授, 研究休暇。

1993. 3. 31. 裴岩秀章, 西村 馨, 滝口恵美, 非常勤副手を退任。

1993. 4. 1. 岡本直樹, 岡田恵美子, 清田真由美, 非常勤副手に就任。

岡林秀樹, 大井直子, 川上嘉絵, 前年度に引き続き非常勤副手に再任。

(2) 非常勤講師

1992 秋学期 新田 倫義 (東京女子大学教授)

「EPS 330 学習心理学」

池田 央 (立教大学)

「GEPS 453 教育心理学演習Ⅱ」

平木 典子 (日本女子大学教授)

「GEPS 561 ガイダンス・カウンセリング研究Ⅱ」

冬学期 永田 良昭 (学習院大学教授)

「EPS 370 社会心理学」

吉米地憲昭 (ICU カウンセリングセンター主任)

「思春期・青年期心理学」

鳥居 修晃 (聖心女子大学教授)

「EPS 352 知覚心理学」

1993 春学期 池田 央 (立教大学教授)

「EPS 315 心理統計Ⅱ」

渡辺 正孝 (東京都神経科学総合研究所)

「EPS 330 学習心理学」

岡村 達也 (専修大学文学部助教授)

「EPS 360 臨床心理学」

平木 典子 (日本女子大学教授)

「GEPS 461 ガイダンス・カウンセリング研究Ⅰ」

榎本 稔 (榎本クリニック院長)

2. 研究活動

(1) 心理学談話会・講演会

1993. 1. 26 池田 央 立教大学教授
「授業の評価」
於 A-206 出席者 37 名

(2) 論文発表会

1992. 10. 6 卒論中間発表会 (1)
修士論文中間発表会
10. 13 卒論中間発表会 (2)
6月卒業生卒論計画書発表会
10. 27 博士論文中間発表会 発表者：豊岩秀章
1993. 2. 5 卒論発表会 発表者 13 名
修士論文発表会 発表者：荻原美文
6月卒業生卒論中間発表会
6. 3 6月卒業生卒論発表会 発表者 2 名
6. 23 卒論計画書発表会
- (3) 心理学サマーセミナー
1993. 7. 5～7 (2泊3日)「ぞくぞく家族，家族をのぞく」
於 八王子大学セミナーハウス
参加者 教職員 4 名，院生・学部生 34 名
(実行委員長：佐々木真一，アドバイザー：向井敦子)

(4) 日本生理心理学会第 11 回学術大会

1993. 5. 15～16
於 理学館，総合学習センター，本部棟，ICU 高校食堂
参加者 約 200 名
(大会会長：原 一雄，事務局：向井敦子)

(5) その他

1993. 2. 26 非常勤講師慰労会 於 聘珍樓

原 一 雄 教授

研究活動

- ① 教育心理学的研究：
 - a) 大学生の価値観
 - b) 教育環境の査定
- ② 高等教育に関する研究：
 - a) 大学教職員の資質開発 (FD / SD) プログラム
 - b) 大学の階層別自己点検・評価法

学会発表等

- ① 「心理学の生物学的基礎：20世紀後半を顧みて」
日本生理心理学会第11回大会学術大会会長講演（於 国際基督教大学）1993. 5. 17
- ② 「大学生の価値観 その6：価値観の基本的構造」
日本心理学会第57回大会（於 早稲田大学）1993. 9. 8

著 作

- ① 『国際基督教大学における一般教育プログラムの変遷：Ⅱ．関連統計・資料篇』
ICU一般教育シリーズ26 125頁（1992. 9. 1.）
- ② 「編入制度の基本原則と運用上の障壁」『一般教育学会誌』, 14-2(1992. 11.), 10-13.
- ③ 「教師自身による自己診断」『一般教育学会誌』, 14-2 (1992. 11.) 25-27.
- ④ 「大学の自己点検・評価：教員間の比較」『一般教育学会誌』, 14-2 (1992. 11.) 76-78.
- ⑤ 「感情の生理心理学的測定法をめぐって—動物の脳損傷実験の役割—」『生理心理学と精神生理学』10-2 (1992. 12.), 103-105.
- ⑥ 「よい授業とは何か（第2章）」大学セミナー・ハウスFDプログラム小委員会編『FDハンドブック増補改定版』（1993. 9. 10.）, 11-18.
- ⑦ 「試験で何を測定し、どう評価するか（第5章）」大学セミナー・ハウスFDプログラム小委員会編『FDハンドブック増補改定版』（1993. 9. 10.）, 39-49.
- ⑧ 「生理心理学（第4章 最近の一傾向）」梅岡義貴他共著『心理学基礎論文集—昭和記念集—』新曜社（印刷中）
- ⑨ 「心理学の生物学的基礎：20世紀後半を顧みて」『生理心理学と精神生理学』（印刷中）

そ の 他

- ① (論評)「大教センターへのお願い」広島大学・大学教育研究センター『コリーグ』(No.21) 1992. 9.
- ② (随筆)「プロとしての大学教員とは—『大学設置基準の改正』と Faculty Development 活動をめぐって」JACET 通信, No. 87, 1992. 12, 13-14.
- ③ (随筆)「『授業評価』: 大学教員自身の生涯学習のために」FDニュース, 第9号, 1992.10. 1.
- ④ (講演)「『大学の自己点検・評価』の全学的組織のあり方について」日本私立大学連盟平成4年度第1回大学問題研修会(於 滝谷大学) 1992. 9. 3.
- ⑤ (講演)「カリキュラム改革にともなう諸問題—異なる立場間の調整をめざして」日本私立大学連盟平成4年度第2回大学問題研修会(於 豊橋ホリディーイン) 1992. 12. 17.
- ⑥ (講演)「『家族』の心理学」ICU 心理学サマー・セミナー(於 大学セミナー・ハウス) 1993. 7. 6.
- ⑦ (講演)「レッドランド大学のセルフスタディー報告書」日本私立大学連盟海外大学経営セミナー研修会(於 私学会館) 1993. 7. 6.
- ⑧ (講演)「アメリカの大学における自己評価報告書について」日本私立大学連盟平成5年度第1回大学問題研修会(於 豊橋ホリディーイン) 1993. 7. 28. 同第2回大学問題研修会(於 東海大学) 1993. 9. 1.
- ⑨ (講演)「大学における自己点検・評価の在り方」(於 防衛医科大学校) 1993. 9. 30.
- ⑩ 学会役職等
 - (1) 文部省: 学術審議会専門委員
 - (2) 日本学術会議: 心理学研究連絡委員
 - (3) 一般教育学会: 常任理事, 『一般教育学会誌』編集委員長
 - (4) 日本基礎心理学会: 常任運営委員
 - (5) 日本生理心理学会: 常任運営委員, 第11回学術大会会長
 - (6) 日本私立大学連盟: 研修企画委員会副委員長
 - (7) 大学セミナー・ハウス: 大学教員懇談会FDプログラム小委員会委員

藤 永 保 教授

研究活動

- ① 国際学術研究「日韓乳幼児における母子相互作用の比較文化的研究」のため, 1993.

4及び1993年8月に渡韓、韓国側研究者との討議及び予備調査を行った。

- ② 総合研究B「東アジアの母子関係における文化普遍性と特異性の研究」は、前項国際学術研究遂行のための国内の準備研究を行なうもので、日本側メンバーの定期的研究会を主催している。
- ③「思考と言語の相互作用」に関する研究で、発達科学研究教育センターより奨学寄附金を受け研究を行なっている。

学会発表・参加

- ①「性格研究これからの課題」シンポジウム 発題者日本性格心理学会第1回大会（於 日本大学文理学部）1992・11月
- ② 日本発達心理学会第4回大会参加（於 横浜国立大学）1993・3月
- ③「発達を科学する」シンポジウム 指定討論者 日本心理学会第57回大会（於 早稲田大学人間科学部）1993・8月

著作活動

- ①『発達の心理学』（復刊版）岩波新書 1993年5月
- ②「初期記憶の研究（1）」『発達の研究』Vol. 8, 27～38 1992年12月
- ③「数学的英才児の課題解決（xiii）優秀児の指導者に対する質問紙とインタビュー」『発達研究』Vol. 8 No. 1～10 1992年12月
- ④「性格心理学の課題 発達心理学の立場から」性格心理学研究 Vol. 1 No. 34～35 1993・1月

その他

- ① 上海青年聯合会主催講習会「発達心理学の発展」・「児童カウンセリングの条件」講師 1992年11月26日～12月3日
- ② 母子愛育会 講演「3歳児の成長」1992年10月
- ③ 藤沢市保育者連盟研修講座「初期発達と人間環境」1992年12月
- ④ お茶の水女子大学児童教育研究会主催シンポジウム「現代教育の課題」1993年2月
- ⑤ 群馬県私立幼稚園協会上級研修講座 講演「幼稚園教育を考える その現状と問題点」1993年8月
- ⑥ 科学技術庁客員主任研究官 1992年4月～1993年3月
「創造的人材の選抜と発達」1993年4～

栗山容子 準教授

研究活動

- ① 幼児・児童期における2人ゲーム遊びにおける方略の発達を、課題事態の認知、行動の制御、他者視点の理解、言語的インタラクション、および情緒的な経験の共有などの多次元の視点から検討を継続して行っている。
- ② ハイ・リスク児（低出生体重児）の多面的発達の早期介入の効果について縦断的に検討を行っている。特に神経学的診察をはじめとして、認知と言語、情緒、社会性および母子関係について前方視的観点から発達の諸特徴を検討している。
- ③ 父親が乳児期の子どもに対してどのように働きかけているか、言語的、非言語的なかわりの質的、量的な特徴を母親の働きかけと比較しながら検討を行っている。また3者関係としての家族のダイナミズムをインタラクションのありかたを通して検討していく。

学会発表

- ① 「母親の子どもに対する意識・感情 一対人関係の認知と人格的特徴、デモグラフィック要因の影響」 日本心理学会第56回大会 1992. 9. 9-11 於 同志社大学
- ② 「協力を必要とする2人ゲーム遊びにおける遊び方略の発達の検討（3）」 日本発達心理学会第4回大会 1993. 3. 27-29 於 横浜国立大学（足立実絵、荻原美文、権藤桂子と共同発表）
- ③ “Developmental changes and differences in response strategies to a dilemma task in pairs of children of three age levels” Twelfth Biennial Meetings of the International Society for the Study of Behavioural Development. 19-23 July, 1993. Recife, Brazil.

論文・著作

- ① 「2-4歳児の象徴遊びと玩具の役割」 教育者・研究者のための遊び・おもちゃに関する研究集Ⅰ 1993, pp. 155-178. 佐藤玩具文化財団
- ② 「子どもの創造性を伸ばす大人の関わり方・おもちゃの役割 一象徴遊びと玩具の役割一」 玩具文化 1993, No. 11, pp. 12-28.
- ③ 「創造性開発とおもちゃ」 おもちゃシンポジウム 1993, pp. 47-91. 社団法人日本玩具協会

その他

- ①「国際基督教大学教養学部入学試験問題調査研究報告書」 ICU 教養学部 1993.
- ②「おもちゃシンポジウム」 パネラー 社団法人日本玩具協会 1993. 2. 15 於
かつしかテクノプラザ
- ③ 東京女性文化財団研究助成：研究テーマ「父親と母親の子どもに対する働きかけ方
略の実証的研究 ― 12-14 ヶ月児に対して―」

小 谷 英 文 準教授

研究活動

- ① 精神療法技法
 - 1) 個人精神療法 2) 集団精神療法 3) コンバインドセラピー 4) インテン
シヴセラピー, 等各種治療的介入法の検討, 開発と技法構成のシステム論的研究
 - 5) ケースマネジメント技法
- ② 難治事例の心理力動理論
 - 1) 性格障害の治療的要因 2) 精神分裂病の適応機制 3) シゾイドプロセスの
力動的解明と治療理論 4) 女性のエディプスコンプレックスの力動論
- ③ 精神療法のトレーニングメソッドの開発とシステム化
- ④ 応用
 - 1) 精神療法理論の教育現場への応用 2) 精神療法理論の看護技法への応用 3) 精神療法理論の企業内人事マネジメントへの応用 5) 相談組織のシステムデザ
イン

学会発表等

- ① 日本心理臨床学会第 10 回大会 主幹 日本大学 於 日本大学 1992, 10.
 - a) ワークショップ 「精神分析的な精神療法の徹底操作」 講師
 - b) 座長・指定討論者 事例研究発表
- ② 日本集団精神療法学会年次研修ワークショップ
於, 東京都中部総合精神保健センター 「力動的集団精神療法の基礎」 担当
1992. 11.22-23.
- ③ 日本集団精神療法学会第 10 回大会 於, 秋田市, 1993. 3. 20-21.
特別研究報告「集団精神療法の効果」

論文・著作

① 編著

「ガイダンスとカウンセリング：指導から自己実現への共同作業へ」 北樹出版

1993 年 4 月 30 日

② 論文

単著

「個人力動と集団力動の関係」 集団精神療法 1993. Vol. 1-(1), 9-15.

共著

小谷英文・小沢良子・阿部能成 「慢性分裂病者に対する期間制限集団精神療法」

集団精神療法 1993. Vol. 1-(1), 48-56.

集中講義等

① 講義「臨床人格理論」 1992. 11.11.

事例研究指導「人格理論を適用した事例研究法」 1992. 11.22.

査定面接技法実地指導 1992. 11 月 18, 24, 26, 30, 12 月 3.

家庭裁判所調査官研修所

② 集中講義「臨床心理学」 広島大学学校教育学部 1993. 7. 12-15.

③ ワークショップオーガナイザー 「個性性を重視した教育指導」 広島県教育委員会
1993. 7. 27-30.

学会・研究団体・審議会等における委員・役職

① 日本集団精神療学会 常任理事 1986. 4. 一現在

② 日本集団精神療学会 学会誌「集団精神療法」編集委員 1986. 4. 一現在

③ 日本集団精神療学会 渉外委員会 委員長 1988. 1. 一現在

デイヴィッド W. ラッカム 準教授

Research Activities

- D.W. Rackham - The psychological impact of climatological variables.
- D.W. Rackham - Psychology's historical debt to Christianity and related religious traditions.
- D.W. Rackham - Computer based teaching and research resources in psychology.
- D.W. Rackham - Pavlovian discriminative conditioning in the black bass, Micropterus salmoides and the three-spined stickleback, Gasterosteus aculeatus.

- D.W. Rackham with M.W. Steele – Historical and psychological dimensions of environmental consciousness.

Conferences and Meetings Attended:

- Maritime Conference, United Church of Canada, Division of World Outreach meeting in Pugwash, Nova Scotia, Canada, October 14, 1992.
- Annual General Meeting, Division of World Outreach, United Church of Canada at Five Oaks Conference Centre, Paris, Ontario, Canada, October 22–29, 1992.
- Meeting with Dr. Gordon MacDermid, President, Atlantic School of Theology, Halifax, Nova Scotia, Canada, April 25, 1993.
- Meeting of Maritime Conference of the United Church of Canada, Sackville, New Brunswick, Canada, May 28–29, 1993.
- Meeting with Dr. Azim Nanji, Chairman, Department of Religious Studies, University of Florida, Gainesville, Florida, U.S.A, June 9–14, 1993.
- Meeting with University of Florida officials regarding environmental studies programmes, Gainesville, Florida, U.S.A, June 9–14, 1993.

Publications

- Rackham, D.W. “Science, humanism, and psychology’s historical debt to Christianity” *Educational Studies* 35 (1993), 117–134.
- Rackham, D.W. “Environmental crises and environmental studies: a role for psychology” Paper prepared for inclusion in *Educational Studies* 36 (1994).

Other Activities

- English language proof-reading services for Japanese Psychological Association publications and ICU colleagues.
- Member, Board of Trustees, American School in Japan (ASIJ)
- Subscription and circulation services on behalf of The Japan Christian Annual
- Leader, weekly adult class, West Tokyo Union Church
- A variety of ongoing activities of an educational and service nature in connection with missionary associate/overseas personnel status with the United Church of Canada and the United Church of Christ in Japan (Kyodan) – list appended for activities as Overseas Personnel of the United Church of Canada in Canada, Bermuda, and the United States while on sabbatical leave, September 1, 1992 to August 31,

1993.

ACTIVITIES AS OVERSEAS PERSONNEL ON BEHALF OF THE UNITED CHURCH OF CANADA

September 1, 1992 – August 31, 1993

- October 14, 1992 – Maritime Conference DWO meeting in Pugwash, Nova Scotia.
- October 22–29, 1992 – Annual General Meeting, Division of World Outreach, United Church of Canada at Five Oaks Conference Centre, Paris, Ontario.
- October 20, 1992 – Address to Senior Citizens of Bethany United Church, Halifax, Nova Scotia.
- December 2, 1992 – Address to Men's Club of Bethany United Church, Halifax, Nova Scotia.
- December 7, 1992 – Meeting of DWO committee of Halifax Presbytery, Halifax, Nova Scotia.
- December 8, 1992 – Meeting of Halifax Presbytery, Halifax, Nova Scotia.
- February 14, 1993 – Message delivered to congregation of Wesley Methodist Church, Hamilton, Bermuda (Radio broadcast February 21, 1993).
- February 14, 1993 – Meeting with Young People's Group of Wesley Methodist Church, Hamilton, Bermuda.
- February 15, 1993 – Meeting with Mission Committee of Wesley Methodist Church, Hamilton, Bermuda.
- February 16, 1993 – Address to Rotary Club of Hamilton, Princess Hotel, Hamilton, Bermuda (Radio broadcast).
- February 16, 1993 – Address to combined meeting of UCW groups of Methodist Church in Bermuda.
- February 17, 1993 – Address to students of Bermuda High School, Hamilton, Bermuda.
- February 17, 1993 – Presentation to open meeting of Hamilton Methodist churches, Hamilton, Bermuda.
- February 18, 1993 – Visit to Edenezer Methodist Church, St. George's, Bermuda.

- March 21, 1993 – Message delivered to congregation of St. George and St. Andrew United Church of Annapolis Royal, Nova Scotia.
- March 22, 1993 – Address to UCW of St. Andrew's United Church, Halifax, Nova Scotia.
- March 28, 1993 – Message delivered to congregation of Pictou United Church, Pictou, Nova Scotia.
- March 28, 1999 – Presentation to congregation of Pictou United Church, Pictou, Nova Scotia.
- April 5, 1993 – Meeting of DWO Committee of Halifax Presbytery.
- April 13, 1993 – Meeting of Halifax Presbytery, Mount Uniacke, Nova Scotia.
- April 15, 1993 – Meeting with Dr. Gordon MacDermid, President, Atlantic School of Theology, Halifax, Nova Scotia.
- April 19, 1993 – Presentation to combined UCW of St. John's and United Memorial Churches, Halifax, Nova Scotia.
- April 25, 1993 – Message delivered to congregation of Greenwich United Church, Greenwich, Nova Scotia.
- April 25, 1993 – Message delivered to congregation of St. Andrew's United Church, Wolfville, Nova Scotia.
- April 25, 1993 – Presentation to congregation of St. Andrew's United Church, Wolfville, Nova Scotia.
- May 2, 1993 – Message delivered to congregation of United Church in Ste. Croix, Nova Scotia.
- May 4, 1993 – Television interview for broadcast on cable network, Annapolis Valley, Nova Scotia.
- May 6, 1993 – Brief address to meeting of Truro Presbytery, Bible Hill, Nova Scotia.
- May 10, 1993 – Meeting of DWO Committee of Halifax Presbytery, Halifax, Nova Scotia.
- May 13, 1993 – Presentation to UCW of Fort Massey United Church, Halifax, Nova Scotia.
- May 28–29, 1993 – Meeting of Maritime Conference of the United Church of Canada, Sackville, New Brunswick.
- June 4, 1993 – Brief visit to Division of World Outreach office, the United Church of Canada, Toronto, Ontario.

- June 6, 1993 - Message delivered to congregations of United Churches in Canning and Kingsport, Nova Scotia.
- June 9-14, 1993 - Visit with Dr. Azim Nanji, Chairman, Department of Religious Studies, University of Florida, Gainesville, Florida, U.S.A.
- June 20, 1993 - Message delivered to congregation of St. Paul's United Church, Mount Uniacke, Nova Scotia.
- June 27, 1993 - Message delivered to congregation of New Minas United Church, New Minas, Nova Scotia.

向 井 敦 子 講 師

研究活動

- ① 算数文章題における認知過程
- ② 算数問題解決にみられる論理構造の獲得
- ③ 教授学習状況における教授者と学習者の相互作用

学会発表

- ① 「関数学習のシステム化の試みー LOGO の同型性を媒介した単位当り量の抽出ー」
日本教育心理学会第 34 回総会発表論文集 p. 327. 1992. (於 信州大学)
- ② 「LOGO プログラミングにおける論理的思考の展開」 日本発達心理学会第 4 回大会発表論文集 p. 135. 1993. (於 横浜国立大学)
- ③ 「算数文章題の構造と誤答傾向の分析」 日本心理学会第 57 回大会発表論文集 p. 601, 1993. (於 早稲田大学)

著 作

- ① 「言語の発達」 大日向達子・並木博・福本俊・藤谷智子・向井敦子・石井富美子
(著) 発達心理学 朝倉書店 p. 66-80. 1992.
- ② 「発達の測定と評価」 大日向達子・並木博・福本俊・藤谷智子・向井敦子・石井富美子 (著) 発達心理学 朝倉書店 p. 167-182. 1992.
- ③ 「上下判断課題におけるストループ効果におよぼす文脈に規定された意味の影響」
国際基督教大学学報 I-A 教育研究 35, pp. 135-153. 1993.

〈視聴覚教育研究室〉

1. 人の動き

1992 年 9 月：王淑英助教授，本学に就任。

1992 年 12 月：石本菅生教授，特別研究期間が終わり帰任。

1993 年 4 月：中野照海教授が特別研究期間に入る。

和田正人，飯吉透，川本佳代，海後宗男，柴田協子，渡辺功，石川勝博，加藤由香里が 1993 年 4 月より副手に就任した。

また，次の副手が就任した。

1993 年 3 月辞任：大野春見，金城尚美，高橋直子，萩原順子，飛田ルミ

1993 年 5 月辞任：飯吉透

1993 年 7 月辞任：柴田協子

2. 研究活動

（1）第 29 回日本視聴覚教育学会・第 37 回日本放送教育学会合同大会

本研究室に事務局を置く日本視聴覚教育学会及び日本放送教育学会の合同大会が千葉大学を当番校とし，1992 年 9 月 26 日，27 日の両日にわたり開催された。シンポジウム及び課題研究は次のようなテーマで行なわれ，阿久津喜弘教授，中野照海教授，石本菅生教授，及び大学院生が参加した。

- ・シンポジウム：「生活科におけるメディアの役割」
- ・課題研究：「学校五日制と放送教育」「情意を育てるメディア」

（2）共同研究

飯吉透，SENSATIEN ADISAK，飛田ルミ，川本佳代，金城尚美，加藤由香里，池田伸子は，日本視聴覚教育協会が受け，昭和 63 年度より行われている文部省補助金による平成 4 年度「マルチメディア等の教育利用に関する開発研究—ハイパーメディア教材の自作—」（座長：中野照海）に参加し，ハイパーメディア教材の開発を継続して行なった。平成 5 年度には，同研究を川本佳代，草野宗子，南之園博美，叶谷彰子が引き続き行なっている。

飯吉透，川本佳代は，文部省助成による「ニューメディア教材研究開発事業」（座長：中野照海）に参加し，ハイパーメディア教材の開発・評価や文献の収集を断続して行っている。

中 野 照 海 教 授

研究活動

- ① マルチメディア等の教材の教育利用に関する開発研究（文部省研究委託・日本視聴覚教育協会，第3年次研究助成，座長）
- ② 視聴覚教育メディア研修マニュアル・ビデオの開発（文部省委託研究・主査）
- ③ トルコ厚生省コミュニケーション・センターの運営に関わる基礎調査と評価（第5年次国際協力事業団による技術協力プロジェクト 主査）
- ④ ホンデラス国立教育研究所（研究協力プロジェクトのための基礎調査 主査）
- ⑤ テュニジア人口教育促進プロジェクトのための基礎調査（テュニジア家族計画推進公団・国際協力事業団による技術協力プロジェクトのための調査 主査）
- ⑥ 学部教育教材の制作と評価分析（文部省科学研究費助成継続，放送教育開発センター研究プロジェクト，共同研究者）
- ⑦ 教育メディアの発達史編纂（文部省科学研究費助成継続，放送教育開発センター研究プロジェクト，共同研究者）
- ⑧ 文部省研究開発事業助成「視聴覚教育メディア研修マニュアル・ビデオ」の開発（開発委員会主査）

上記は研究助成を得て行なっているものであるが，その他に視聴覚教育の評価の問題，画像コミュニケーションの基礎的研究，授業のモデルの問題，「マルチメディア研究計画に関する基礎調査」（文部省教育メディア部会）などの活動を継続中である。

学会発表等

- ① 「ハイパーメディア教材による学習の評価項目の妥当性に関する実証的研究」（飯吉透と連名）1992年度第29回日本視聴覚教育学会・第37回日本放送教育学会合同大会，（千葉大学）1992年9月26～27日。（発表要旨集録 pp.39～40）
- ② 「『ハイパー・サイエンスキューブ II』の開発と評価」（篠原文陽児と連名）1992年日本教育工学会第8回大会（茨城大学）日本教育工学会 1992年10月10～11日。（発表要旨『講演論文集』PP.230～231）
- ③ 「ハイパーメディア教材利用学習における学習の機制に関する実証的研究」（飯吉透と連名）日本教育工学会研究会教育メディア部会（大阪大学）1993年6月30日。

著 作

- ① 「第1章 視聴覚教育の意義と方法」（PP. 3～17）『視聴覚教育メディアの活用』

視聴覚教材センター 1993 年

- ②「現代の教師に必要な指導力」(PP.44～49)『教育じほう』NO.539 1992 年 12 月号
- ③「ニューメディア」(P.289)「光通信」(P.290)『キーワード時代を読む—教職研修記念号』1993 年 3 月号
- ④「第 1 章 研究の背景と目的」(PP. 5～7), 「第 2 章 研究の方法」(PP. 8～10), 「第 5 章 研究の総括と展望」(PP.121～123)『マルチメディア等の教育利用に関する開発研究—ハイパーメディア教材の自作を中心に—』日本視聴覚教育協会 1993 年
- ⑤「視聴覚教育メディア研修の指導マニュアルの作成」(PP. 115～119)『視聴覚教育指導者講座手引書』文部省学習情報課 1993 年
- ⑥「多メディア時代に対応する放送教育」(pp.21-23)『放送教育』1993 年 6 月号
- ⑦「ハイパーメディアの研究と開発の課題—新たな学習メディアの教育可能性を拓く」(pp.143-149, 再録)『視聴覚教育 創刊 550 号記念』8 月 1993 年
- ⑧「1 教育の方法と技術のとらえ方」(pp. 1-19)『教育の方法と技術』教育技術研究会 ぎょうせい 1993 年
- ⑨「21 世紀をめざしたて—新しい教育システムの創造—」(pp. 12-13)『視聴覚教育機器ハンドブック 94 年版』1993 年 8 月

(エッセー)

- ①「理屈のすすめ—課題解決を志向する思考—」『視聴覚教育』9 月号 pp. 84-85, 1992 年
- ②「片仮名語の使用—禁欲的な姿勢を保って—」『視聴覚教育』10 月号 pp. 40-41, 1992 年
- ③「結果を問わない学習—構成主義学習観から—」『視聴覚教育』11 月号年 pp. 42-43, 1992 年
- ④「教育における体験—仮想現実による学習—」『視聴覚教育』12 月号 pp. 42-43, 1992 年
- ⑤「視聴覚教育の良さ—ハーバード式入試から—」『視聴覚教育』1 月号 pp. 40-41, 1993 年
- ⑥「個別利用の紙芝居—双方向コミュニケーションの働き—」『視聴覚教育』2 月号 pp. 40-41, 1993 年
- ⑦「メディア専門家の給与—米国学会の調査から—」『視聴覚教育』3 月号 pp. 40-41, 1993 年

- ⑧「ハイパーマニュアルー多様な必要性に応えるメディアー」『視聴覚教育』4月号
pp. 44-45, 1993年
- ⑨「メニュー方式の延長線上ー視聴覚教育研修手引書指導編ー」『視聴覚教育』5月号
pp. 42-43, 1993年
- ⑩「図書館方式と放送局方式ー視聴覚教育センターの機能ー」『視聴覚教育』6月号
pp. 40-41, 1993年
- ⑪「仮想現実の教育的意義ー具体性と抽象性の再吟味ー」『視聴覚教育』7月号
pp.40-41,1993年.
- ⑫「マルチメディアの意味ーハイパーメディアと同じかー」『視聴覚教育』8月号 pp.
192-193, 1993年
- ⑬「酒とタバコへの想い」『視聴覚教育』1月号 pp. 28-29, 1993年
- ⑭「巻頭言：体験の層」『視聴覚教育時報』No. 365, 1993年

(教材開発)

- ①『コンピュータを活かす授業ー通信・データベースの利用』(文部省助成視聴覚教育
メディア研修シリーズ・ビデオ 16分)開発委員会主査 1992年
- ②『ハイパーメディアが拓く教育』(文部省助成視聴覚教育 メディア研修シリーズ・
ビデオ 16分)開発委員会主査 1992年

講演等

- ① 講義「学校教育と情報化」文部省中堅教育職員研修(教育会館筑波分館)1992年10
月3日
- ② 講演「生涯教育における視聴覚教育の役割」千葉県視聴覚教育振興大会(船橋教育
センター)1992年11月4日
- ③ 司会とコメンテーター「日本賞記念シンポジウムー教育と放送ー」NHK 1992年11
月16日
- ④ 講演「学校教育と情報化」文部省図書教員協議会(オリンピック記念青少年センター)
1992年11月20日
- ⑤ 審査報告「平成4年度視聴覚教育賞表彰式」(国立教育会館)1992年12月2日
- ⑥ 実地調査「テュニジア人口教育基礎調査」1993年1月4日～14日
- ⑦ 講義「マルチメディアを活用した視聴覚教育の展開」文部省生涯学習局(教育会館
筑波分館)1993年1月20日
- ⑧ 講義「学校教育と情報化」文部省中堅教育職員研修(教育会館筑波分館)1993年
5月19日

- ⑨ 現地調査「トルコ人口教育プロジェクトの評価」トルコ共和国（アンカラ、ブルサ）
1993年5月21日～29日
- ⑩ 講義「視聴覚教育メディア研修の指導マニュアルの作成」文部省学習情報課（社会
教育研修所）1993年7月20日
- ⑪ 講演「マルチメディアの意味とその活用」教育の近代化展（東京晴海）1993年7
月28日
- ⑫ シンポジウム「中学校における放送利用」全放連特別研修会（東京神田）1993年
7月31日
- ⑬ 講演「マルチメディアを活用した視聴覚教育の展開」文部省学習情報課（文部省試
写室）1993年8月4日

そ の 他

- ① 日本視聴覚教育学会理事，学会誌『視聴覚教育研究』編集委員
- ② 日本放送教育学会理事，学会誌『放送教育研究』編集委員長
- ③ 日本教育工学会理事，運営委員，国際委員
- ④ 文部省生涯学習審議会特別委員
- ⑤ 文部省生涯学習審議会社会通信教育部会委員
- ⑥ 文部省生涯教育審議会教育メディア部会長代理
- ⑦ 文部省社会教育分科審議会教育メディア部会「新しい教育メディアの応用に関する
調査」研究協力者会議委員
- ⑧ 国立民族学博物館情報システム委員会委員
- ⑨ 国立放送教育開発センター客員教授
- ⑩ 国際協力事業団医療協力検討部会委員，トルコ検討部会委員，テュニジア検討部会
委員，ホンデュラス研究協力委員会座長
- ⑪ 国際協力事業団「開発と教育」援助検討委員会委員
- ⑫ NHK 学校放送中央諮問委員会委員
- ⑬ 「視聴覚教育賞」（文部省・日本視聴覚教育協会）選考委員
- ⑭ 日本映画機械工業会・日本工業標準（JIS）新規原案作成委員会映写機等小委員会
委員
- ⑮ 財団法人日本視聴覚教具連合会会長
- ⑯ 財団法人日本視聴覚教育協会理事

石 本 菅 生 教授

研究活動

- ① C A I システムの開発研究
- ② 大学における情報教育カリキュラム等に関する研究
- ③ 科研総合研究『融合型マルチメディアの教育利用に関する研究』（代表者：高桑康雄上智大学教授）に参加

学 会 等

- ① 私立大学情報教育協会平成5年度年次大会参加 1993年9月3－5日 私学会館
- ② 日本視聴覚教育学会・日本放送教育学会連合大会参加 1993年11月19－21日 江戸川大学

そ の 他

- ① 日本視聴覚教育学会理事
- ② 日本放送教育学会理事
- ③ 社団法人私立大学情報教育協会情報教育研究委員会委員
- ④ 社団法人私立大学情報教育協会情報教育方法研究会運営委員
- ⑤ 社団法人私立大学情報教育協会情報教育方法研究賞審査委員
- ⑥ 社団法人私立大学情報教育協会相談・助言協力者

阿 久 津 善 弘 教授

研究活動

- ① 「メディア行動」に関する研究
- ② 「教育コミュニケーション研究」の体系化

学会発表

- ① 「マスメディア報道源に対する信頼度と接触量が現実の社会的構築に及ぼす影響に関する研究」（和田正人・海後宗男との共同研究）第29回日本視聴覚教育学会・第37回日本放送教育学会合同大会（1992年9月26－27日，千葉大学教育学部）
- ② 「テレビ番組別の接触行動に関する研究（4）」（佐々木輝美・和田正人との共同研究）日本教育社会学会第44回大会（1992年10月9－11日，岡山大学教育学部）

著 者

- ①「オピニオン・リーダー」「活字離れ」「パーソナル・コミュニケーション」「メディア」奥田真文・河野重男監修『現代学校教育大事典』ぎょうせい, 1993年7月
- ②「大学革新に際して望まれる一般教育のあり方」『INFORMATION』8巻7号, 旺文社入試情報センター, 1992年10月

そ の 他

- ① 日本視聴覚教育学会理事, 編集委員
- ② 日本放送教育学会理事, 編集委員
- ③ 日本教育社会学会評議員

Suk-Ying Wong 助教授

RESEARCH ACTIVITIES (AWARDS, FELLOWSHIPS AND HONORS)

- ① Spencer Research Fellowship-Spencer Foundation, selected by the U.S. National Academy of Education, 1993-1995.
Research Topic: "The Rise, Expansion and Meaning of Social Sciences Instruction: A Cross-National and Longitudinal Study."
- ② Visiting Scholar, Stanford University, U.S.A., 1993-1996.
- ③ Program in Sociology Grant, National Science Foundation, 1993-1996.
Title of Project: "The Impact of Science and Mathematics Education on National Economic Development: Cross-National and Longitudinal Analyses" (With Professors John W. Meyer and Francisco Ramirez, Stanford University, U.S.A.).
- ④ Canadian Social Science Research Council, 1993-
Title of Project: "Professional Actions and Cultures of Teaching: International Studies of Teachers' Work in Changing Contexts" (with Professors Hidenori Fujita, Tokyo University and Nobuo Shimahara, Rutgers University as National Project Directors for Japan).
- ⑤ Guest Associate Professor, National Institute of Multimedia Education, Ministry of Education, Japan, since 1992, September.
- ⑥ Japan Ministry of Education, Grant for International Research, 1993-1994.
Title of Project: "Effectiveness of Distance Education in Rural Asia: A Comparative Study of Traditional and Nontraditional Form of Education in the People's Re-

- public of China.” (Principal Investigator: Professor Ikuo Amano, Tokyo University).
- ⑦ Japan Ministry of Education, Grant for International Research, 1992–1993.
Title of Project: “The Effectiveness of Media Technology in Distance Education: A Case Study of the South Pacific Islands.” (Principal Investigator: Professor Tatsuhiko Kawashima, Gakusyuin Daigaku).
- ⑧ Japan Ministry of Education, Great Support for Attending International Conferences, 1992.
“The VIII World Congress of Comparative and International Education,” September, 1992, Prague, Czechoslovakia.

PUBLICATIONS:

Work Published

Articles

- ① “*Asia: Southeast and East: Adult Education and Training*,” in Husen, Torsten and Postlethwaite, T.N.(eds.), International Encyclopedia of Education, Second Edition. Oxford: Pergamon Press, 1994.(with Kai-Ming Cheng and Nan-zhao Zhou).
- ② “*Effectiveness of Distance Learning in the South Pacific: the Case of Asutralia*,” in Research Paper Series, National Institute of Multimedia Education, Japan, 1993.
- ③ “*Chinese in Chinese Motion Pictures: Social Change in Three Chinese Societies*,” in Invitation To Visual Sociology. Tokyo: Yuhikaku, 1993(in Japanese).

Books

- ④ School Knowledge for the Masses: World Models and National Primary Curricular Categories in the Twentieth Century. London: Falmer Press, 1992.(with John W. Meyer, et al).
- ⑤ Asia and the Pacific: A Survey of Distance Education, 1992, Volume I and II. New Papers on Higher Education Studies and Research. Paris: UNESCO, 1992.
- ⑥ Distance Education in Asia and the Pacific: Country Papers (Eds.). New Papers on Higher Education Studies and Research. Paris: UNESCO, 1994.

Works in Progress

- “The Institutionalization of Science Education(1950–1986),” Comparative Education Review (under Review).

CONFERENCE/PRESENTATIONS/PAPERS

- ① “*Professionalism and Cultures of Teaching in Japan.*” Paper Presented at the 2nd International Symposium on Professional Actions and Cultures of Teaching: International Studies of Teachers’ Work in Changing Contexts, (with Professors Hidenori Fujita, Tokyo University and Nobuo Shimahara, Rutgers University). Ontario, Canada, 1993.
- ② “*State Formation and Nation–Building: The Role of Social Sciences Instruction in Modern Educational Systems.*” Invited Presentation at the Sociology Department, Stanford University, August, 1993.
- ③ “*Hong Kong in Transition: Issues and Prospects.*” Invited Presentation by the Asian Interest Group, Mitaka, 1993.
- ④ “*Bridging the Formal and Non–Formal Mode: A Comparative Study on Distance Higher Education in Asia.*” Paper Presented at the VIIIth World Congress of Comparative Education, Prague, Czechoslovakia, 1992.

OTHER PROFESSIONAL ACTIVITIES:

Special Journal Reviewer, *Sociology of Education* (A Major Journal of the American Sociological Association), 1992 and 1993.

Guest Consultant, *Curriculum Reform Committee*, Beijing Normal University, Department of Education, Beijing, China, 1992–.

和田 正人 副手

研究活動

マス・コミュニケーション接触行動に関する研究

学会発表

1992年10月10日 日本教育社会学会第44回大会（岡山大学）において、「テレビ番組別接触行動に関する研究（4）」を、阿久津喜弘、佐々木輝美との共同で発表。

川本 佳代 副手

研究活動

- ① 教授・学習過程の研究
- ② ハイパーメディアによる学習の研究

学会発表・参加

- ① 1992年9月 第29回日本視聴覚教育学会 第37回日本放送教育学会合同大会参加，於千葉大学
- ② 1992年10月 日本教育工学会第8回大会，於 茨城大
「ハイパーメディア「ハイパーサイエンスキューブⅡ」の開発と評価（2）－「ハイパーサイエンスキューブⅡ」の機能と特徴
- ③ 1992年11月 日本教育工学会研究会参加，於 大阪大

著 作

「空間認識認識能力と鳥瞰図がハイパーメディアによる学習に及ぼす影響に関する実験的研究」『東京学芸大学教育学科教育学研究年報』第11号 1992年11月 53-67頁

海 後 宗 男 副手

研究活動

- ① マス・メディア報道源の機能と効果に関する研究
- ② マス・メディア報道源の社会的認知に関する研究
- ③ 社会的現実の認知構造に関する研究

学会発表

1992年9月27日，第29回日本視聴覚教育学会・第37回日本放送教育学会合同大会において，「マスメディア報道源に対する信頼度と接触量が現実の社会的構築に及ぼす影響に関する研究」を発表（阿久津喜弘，和田正人との共同研究）

著 作

“The Social Construction of Reality by Mass Media News Source Credibility and Exposure” 国際基督教大学学報Ⅰ-A 教育研究 35, 1993. pp. 207-235.

〈英語教育研究室 (Department of English Teaching)〉

Spring Seminars under the auspices of the Institute for Educational Research and Service were held in 1993. This series was organized by Associate Professor J. Maher and with the assistance of Professor R. Thrasher both of the English Teaching Department in the Graduate School of Education. There were several invited speakers from universities in Japan and overseas.

Language Maintenance and Peripheral Language Communities

May 13: Introduction and Greetings: Professor Akihiro Chiba, Director of IERS

- 1) Dr. Joseph DeChicchis(ICU, Tokyo) May 13

Creating an Orthography: the writing of modern Q'eqchi'

Discussant: Jacqueline Wasilewski

Chair: Ogawa, Takashi

- 2) Dr. Ludo Verhoeven (University of Tilburg, Netherlands) May 20

Immigrant Languages in Europe with special reference to Turkish–Moroccan bilingualism in the Netherlands

Discussant: John Maher

Chair: Suk–Ying Wong

- 3) Dr. Mark Williams (University of Leeds, U.K.) May 27

Endo Shusaku: Relexifying a European genre in Japanese

Discussant: Gerhard Schepers

Chair: Saito, Kazuaki

- 4) Dr. Stephen Murphy–Shigematsu (Temple University, Tokyo) June 3

Contemporary Okinawan Ethnic Identity

Discussant: Randolph Thresher

Chair: Richard Wilson

- 5) Dr. John Maher(ICU, Tokyo) June 10

A Psycho–analytic Exploration of the 'Mother Tongue'

Discussant: Virginia Lo Castro

Chair: Tomabechi, Noriaki

- 6) Sukigara, Rika and Kuramitsu, Noriko (ICU, Tokyo) June 15

Immigrant Language Maintenance in Japan

Discussant: Murano, Ryoko

Chair: Akihiro Chiba

小林 栄智 教授

研究活動

- ① 古英語散文の語彙研究
- ② 高等学校英語教育の研究
- ③ 和英辞典の研究

著作等

- ① 高等学校の新英語教科書『Why English I』,『Why English II』および『Read English』の3冊は文部省の検定済みとなった。
- ② 『和英辞典(初版1976年)』を全面的に改定・大巾に増補し,新しいタイトルで1994年秋頃出版される予定である。

学会参加

- ① 日本中世英語英文学会
- ② 全国英語教育松本研究大学
学会誌 “Studies in Medieval English Language and Literature”

その他

- ① 日本中世英語英文学会, 評議員, 1983 —
- ② 日本中世英語英文学会, 編集委員, 1993 —
- ③ 日本英語学会, 評議員, 1987 —

ジョン C. マーハ 準教授

Research Activities

- ① Britain (Scotland). Encyclopedia Project. Editing and writing of the Encyclopedia of Language and Linguistics, Elsevir-Pergamon. Edinburgh, Scotland, April 1992-present.

- ② Japan (Okinawa). Linguistic field work conducted in Shiraho (Yaeyama Islands). The study of dialectal variation and the development of Okinawan pidgins. March 1993.
- ③ Japan (Hokkaido). Ainu language maintenance and the language revival movement. Obihiro 1993. January. Sapporo, September 1993.

Conference Lectures

- ① "The Ainu language in Japan: revitalizing a "dead" language. International Conference on Minority Language Maintenance and Loss. Nordwijkerhout, Netherlands, October, 1992.
- ② "The sociolinguistics of Anna O.: rewriting psychoanalysis as a linguistic enterprise". The 2nd British Council Conference of Applied Linguistics, Waseda University, Tokyo, November, 1992.
- ③ "Child Bilingualism: the case of Erika". Japan Association of Language Teachers, Tokyo, November, 1992.
- ④ "Japan's New Bilingualism". Yokohama Linguistic Circle. Yokohama, February 26, 1993.
- ⑤ "The Ainu: Heritage Language and People". The Asiatic Society of Japan, April 11, 1993.
- ⑥ "Language's Space in the City". L'Espace, La Ville et la Modernite. ICU, June 21, 1993.
- ⑦ "A Psychoanalytic Exploration of the Mother Tongue". World Congress of the Applied Linguistics Association. Frei Universitat, Amsterdam, Netherlands, August 14, 1993.
- ⑧ "North Kyushu Creole: a Hypothesis concerning the Multilingual Origins of Japanese". Sea, Plough and Sail. Origins and Identity of the Japanese. Australian National University (ANU), Canberra, Australia September 24–October 2, 1993.

Publications

Book Chapters

- ① 「多言語性と多文化性」 [Multilingualism and Multiculturalism] 1993. 『日本社会の民族的構成—エスニシティの社会学』 (Ed. Nakano and Imazu). Tokyo: Sekai-shiso sha. pp.34–46.

Journal Articles

- ① 「シグムント・フロイト：社会言語学的考察」 [Sigmund Freud: a Sociolinguistic Study], 『精神分析研究』 [The Japanese Journal of Psycho-Analysis], Vol.36, No.3. (1992): 229-239.
- ② Guest editorial. "Medical education in a multilingual and multicultural world." International Journal of Medical Education 27 (1993): 3-5.
- ③ (With Ikuko Yuasa). "Bilingualism and Group Boundaries: A Case Study." Bulletin of Asian Cultural Studies. No.19 (1993): 22-37.
- ④ "The Ainu language: undeniably alive: the survival and revival of a language heritage." Japan Times Weekly. August, 1993. p. 8-9
- ⑤ "The Japanese language: homogenous or multilingual." Japan Times Weekly. August, 1993. p. 8.
- ⑥ "Environmental Linguistics." Japan Times Weekly. August, 1993. p. 11.
- ⑦ Review of H. Harmann. Symbolic Values of Foreign Language Use: from the Japanese Case to a General Sociolinguistic Perspective. in Japan." Language Sciences. Vol. 13 No 3/4 (1992): 447-452.

Other Professional Activities

- ① CNN. Interview. "Japan's Minorities." February 1993.
- ② IERS Seminars on "Peripheral Language Communities.". Co-Organizer (with R. Thrasher) and Chair. ICU, April-June 1993.

Peter McCagg 準教授

- 9/92-8/93 Visiting Research Associate at University of California, Berkeley,
Department of Linguistics
- 1/93 Attended Linguistic Society of America Annual Meeting in Los Angeles
- 3/93 Publication of three high school English textbooks by Kenkyusha

The New Age English I. (with Kazuo A., Saito S., Kosuke M., and Mikami M.) 1993.
Tokyo: Kenkyusha. 176 Pages.

The New Age Dialog (with Kazuo A., Saito S., Kosuke M., and Mikami M.) 1993.
Tokyo: Kenkyusha. 105 pages.

The New Age Listening. (with Kazuo A., Saito S., Kosuke M., and Mikami M.) 1993.
Tokyo: Kenkyusha. 111 pages.

- 3/93 Completed work on two additional Kenkyusha texts which will be
 published in 1994
- 4/93 Attended College Composition and Communication
 Conference in San Diego
- 10/93 Attended annual Japan Association of Language Teachers (JALT)
 conference in Omiya Japan

影 山 礼 子 研 究 員

研究活動

- ① ICU 博士学位論文「成瀬仁蔵の教育思想—成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育」(‘A Study of the Educational Thought of NARUSE Jinzo-His Pragmatism and Pluralism through Education at Japan Women’s University’) を 1993 年度文部省研究成果公開促進費助成を得て、1994 年 2 月末に風間書房より刊行の予定である。
- ② 1993 年 8 月中旬より約 1 ケ月半、国際武道大学在外研究助成を得て、成瀬仁蔵の故地をめぐる、米国を調査した。主な調査値は、コロンビア大学、ハヴァード大学、クラーク大学、アンドーヴァー・ニュートン神学校、ダートマス大学、シカゴ大学、ムーディ聖書学院、その他ノース・アンドーヴァー、ノース・フィールドの教会等である。
- ③ 国際女性学会東京会議(1994 年 8 月 5 日～7 日)に向けて、「大学における専攻分野のジェンダー論的研究」を共同研究中である。

執筆活動

① 著作・研究論文

- (1) 「成瀬仁蔵と宗教教育—その多元的宗教教育のケースからの検討」『立教女学院短期大学紀要』No. 24, PP. 33-60, 1992 年 12 月
- (2) 「成瀬仁蔵の教育思想—成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育」(博士学位論文要旨)、国際基督教大学学報 I-A 『教育研究』第 35 号, PP. 55-91, 1993 年 3 月

- (3)『成瀬仁蔵の教育思想－成瀬的プラグマティズムと日本女子大学校における教育』風間書房, 1994年2月刊行予定

② その他

- (1)「成瀬仁蔵先生と渋沢栄一先生」 大村嘉代子作 「目白の雪の日」 パンフレット, 1992年11月14日
- (2)『歴史人物事典』(分担執筆) 朝日新聞社, 近刊
- (3)『渋沢研究』第6号, 渋沢資料館, 1993年(新刊紹介, 同志社編『新島襄一近代日本の先覚者』晃洋書房, 1993年)
- (4)『日本デューイ学会紀要』34号, 1993(日本デューイ学会研究例会報告)

研究発表

「渋沢栄一の教育思想」日本商学研究会, 1992年10月

そ の 他

- ①『渋沢研究』第6号(1993年)を編集した。
- ② 国際女性学会 1994年国際会議, Proceedings of '94 Tokyo Symposium on Women の編集者として, その準備中である。

川 津 茂 生 研 究 員

研究活動

- ① 対称図形の知覚に関する実験的研究
- ② 視覚的探索における非対称性(いわゆる探索非対称性)に関する実験的研究
- ③ 探索非対称性と類似性判断における非対称性の関係に関する理論的, 実験的研究
- ④ 視覚的探索における個人差とストラテジーに関する実験的研究
- ⑤ 認知心理学における“Representation”の定義に関する研究
- ⑥ 認知科学の基礎に関する理論的研究

学会参加, 発表

- ① 日本心理学会第56回大会参加発表, 1992年9月9日～11日, 同志社大学
- ② 日本心理学会第57回大会参加発表, 1993年9月8日～10日, 早稲田大学
- ③ 日本基礎心理学会第12回大会参加発表, 1993年4月29日, 日本大学
- ④ 日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル研究分科会」参加, 1992年12月19

日, 上智大学

- ⑤ 日本認知科学会「パターン認識と知覚モデル研究分科会」参加, 1993 年 6 月 26 日, 上智大学
- ⑥ 視覚探索研究会第 10 回参加, 1992 年 9 月 11 日, 同志社大学
- ⑦ 視覚探索研究会第 11 回参加, 1992 年 12 月 19 日～20 日, 東京大学生産技術研究所
- ⑧ 視覚探索研究会第 12 回参加, 1993 年 2 月 27 日～3 月 1 日, 新潟県塩沢町
- ⑨ 視覚探索研究会第 14 回参加, 1993 年 6 月 26 日, 東京大学, 本郷
- ⑩ 視覚探索研究会第 15 回参加, 1993 年 8 月 17 日～19 日, 長野県穂高町
- ⑪ 視覚探索研究会第 16 回参加, 1993 年 9 月 8 日, 早稲田大学
(視覚探索研究会では主に文献に関する報告をした)

論文, 著作

- ① “A theoretical note on the relationship between search asymmetry and asymmetry in similarity judgments” (1993) Educational Studies, 35, ICU
- ② Kawazu, S. & Yokosawa, K. “Search asymmetry between the searches for symmetry and asymmetry” (この論文は新しいデータを加えて執筆しなおしている)
- ③ 「視知覚と意味をめぐる考察」を執筆した

鬼 頭 当 子 研究員

研究活動

- ① 環太平洋圏における日加関係—資料収集対策とその拡充—
トロント大学学長の要請を受け同大学に約 3 週間滞在し, トロント大学東亜図書館日本語資料の分析と東亜図書館の将来計画についての提案書を作成提出した。
- ② コロンビア大学 (7 月 23 日) エール大学 (7 月 27 日) の東亜図書館を訪問し両図書館の蔵書とその収集, 管理運営について視察。

学会参加

日本図書館学会 1993 年度春季研究集会に出席。

そ の 他

- ① 日本図書館協会大学部会委員
- ② 第 14 回大学図書館研究集会運営委員会, 実行委員会, 委員

渡 部 淳 研究員

研究発表

- ①「海外現地校での学習をどう評価するか」 全国私立中学高等学校第14回国際教育研修会（大坂ガーデンパレス）1992年9月24日
- ②「討論型学習への取り組みと生徒の変容」 日本国際理解教育学会第3回研究発表大会（国連大学）1993年1月24日
- ③「ディベート教育のカリキュラム構想」 異文化間教育学会第14回大会（大阪女学院短大）1993年5月23日

著 作

単著『討論や発表をたのしもう〜ディベート入門』（ポプラ社）1993年4月

その他の出版物

- ①「学校教育と民主主義」
『本の窓』第119号，小学館，1993年2月
- ②「知っておきたい世界の学校教育（1）（2）（3）」
『アメリカンキッズ』日本英語教育協会，1993年6～8月
- ③「（インタビュー）グローバル・エデュケーション時代がやってきた」
『エデュキャスト』創刊号，旺文社，1993年6月
- ④「（インタビュー）知識注入型から獲得型の教育へ」
『21世紀フォーラム』第48号，政策科学研究所，1993年8月

講演等

- ① 講演「日本の教育・海外の教育」富士見市民大学講座（鶴瀬公民館） 1992. 11. 18
- ② 講演「新しい授業改革への視点」和光中学・高等学校 1992. 11. 26
- ③ 指導・助言者 平成4年度国際理解推進指導者講習会 文部省主催（代々木オリンピックセンター） 1992. 12. 8
- ④ 指導・助言者 愛知県一宮町立一宮中学校授業研究会 1992. 12. 11
- ⑤ 講演「転機をむかえた帰国生教育」第5回海外子女教育セミナー 名古屋国際センター主催（名古屋国際センター） 1993. 2. 26
- ⑥ 講演「帰国生から学ぶ日本の児童の未来」大和市児童家庭教育学級（つきみ野文化会館） 1993. 5. 25
- ⑦ 講演「ディベート教育と獲得型授業」港区立東町小学校 1993. 6. 14

- ⑧ 講演「ディベート概論」東京都生協連（東京都消費者センター） 1993. 6. 21
- ⑨ 講演「国際教育の実践方法について」目白学園中学・高等学校 1993. 7. 2

そ の 他

- ① 全国私立中学高等学校・国際教育研修会 専門委員
- ② NHK教育テレビ・国際理解教育番組 番組委員

原 和 子 研究員

研究題目・活動

海外帰国子女の異文化体験の意味とその影響について。

「かつての帰国子女」のライフコースの分析。質問紙とインタビューによる追跡調査を続行中。

学会出席

異文化間教育学会（第14回大会1993年5月22・23日，於大阪女学院短大）出席。

荻 原 美 文 研究員

学会参加

1993. 3. 発達心理学会，ポスター発表（連名）

題：協力を必要とする2人ゲーム遊びにおける遊び方略の発達の検討（3）

1993. 10. 教育心理学会 参加，ポスター発表

題：児童生徒の学習動機づけに関する研究（1）

一得意科目，苦手科目の視点から一

塚 本 美 恵 子 研究員

研究活動

- ① 異文化コミュニケーションの受容に関する研究
- ② 短期留学生の対人価値観の変化と転機に関する研究

著 作 等

転校生の適応—家族ダイナミックスの観点から—「青少年問題」第40巻4号 p. 29
～ 35

学 会 等

- ① 第14回異文化間教育学会参加，1993年5月22日～23日，大阪女子学院短期大学
- ② 神田外語大学異文化コミュニケーションセミナー参加，1993年9月11日～13日，
海外職業訓練協会
- ③ 異文化コミュニケーション研究会参加，1993年9月14日，早稲田大学
- ④ 異文化コミュニケーション研究会参加，1993年10月15日，青山学院大学
- ④ 文化と人間の会参加，1993年10月22日，法政大学

そ の 他

比較教育学会研究委員

Ⅲ. 大学院教育学研究科修士論文

A. 教育哲学

1. 佐渡島紗織 作文指導における「技術」と「経験」
“Skills” and “Experience” in Teaching of Writing
2. 原田 一成 現代における私立高等学校経営に関する考察
－第2次高校生徒数急減期における私立高等学校経営の課題－
Management of Private High Schools in Japan: Contemporary Trends
3. 小川 りえ A Comparative Study of Japanese And English Second Language Instruction In Two Middle Schools Overseas
－The American School In Japan And The Japanese School of New York－
海外子女中等教育施設に於ける第二言語教授に関する比較考察
－アメリカンスクールインジャパン及びニューヨーク日本人学校の場合－

〈1993年3月卒業〉

4. 山口 忍 バングラデシュにおける識字活動に関する一考察
－地域開発における識字活動の役割－
A Study of Literacy Activities in Bangladesh
－The Role of Literacy in Rural Development－

〈1993年6月卒業〉

B. 教育心理学

5. 荻原 美文 学習動機づけの構造的分析
－原因帰属理論を媒介として－
A Structural Analysis of Motivation in School Learning
－Mediated by Causal Attribution Theory－

〈1993年3月卒業〉

C. 視聴覚教育法

6. 金城 尚美 日本語の読解指導における挿入質問の効果に関する実験的研究

- An Experimental Study Concerning the Effects of Adjunct Questions on Japanese Reading Comprehension
7. 西谷 まり 定住外国人の自律的日本語学習におけるテレビ番組の利用に関する研究
- A Study of the Use of TV Programs for Self-Directed Japanese Language Learning in Case of Foreign Residents in Japan
8. 大野 春見 幼児の英語語彙学習への物語教材の適用に関する実験的研究
- An Experimental Study on a Story-Form Learning Materials for Preschool Children's English Vocabulary Learning
9. 高橋 直子 理解における生成モデルによるノートとりの効果に関する実証的研究
- An Empirical Study in the Effects of Note-taking using Generative Model on Comprehension
10. 渡辺 功 テレビ暴力番組の向社会的・反社会的行動に対する効果の実証的研究
- An Empirical Study on the Effects of Violent Television Programs on Prosocial and Antisocial Behaviors
11. 柳原由美子 英語聴解力の指導法に関する実験的研究
ー速読と聴解との連結の効果についてー
- An Experimental Study on Teaching Methods for Developing English Listening Comprehension
ーThe Effects of Linking Rapid Reading and Listening Comprehensionー
- (1993 年 3 月卒業)
12. 萩原 順子 日本語のリーダビリティを高めるシグナリングの効果に関する実験的研究
- An Experimental Study of the Effects of Signaling on the Readability of Japanese Texts
13. 柴田 協子 パソコン通信の普及における「再考案」と「確信」に関する実証的研究
- An Empirical Study of the Relation between "Re-invention" and "Confirmation" in the Diffusion of Computer-Mediated Communication

〈1993 年 6 月卒業〉

D. 英語教育法

14. 難波 正彦 An Instrumental Phonetic Study of Pause in English Sentences
Uttered by Japanese Speakers
日本人話者の発する英語の文中休止に関する機械音声学的研究
15. 島田 咲弥 Anxiety and Performance in the ESL Classroom:
A Study of Learners in ICU's English Language Program
ESL クラスルームにおける不安と言語活動:
ICU 英語学習プログラムにおける学習者に関する一考察
16. 藤田 陽子 A Study of Features Contributing to Reader's Perception of Co-
herence in the ESL Essays
第2言語による文章における読者の一貫性の認識に寄与する要素
に関する一考察
17. 岡崎久美子 A Study of Auxiliary Word Order in Old English Prose
古英語散文における助動詞の語順
18. 白井 裕二 A Syntactic and Semantic Analysis of the BE GOING TO Con-
struction
BE GOING TO 構文の統語論的, 意味論的分析
19. 八木 智子 A Comparative Analysis of Coherence in Essays Written in Eng-
lish and Japanese
英文及び和文小論文におけるコヒアレンスの一比較研究

〈1993 年 3 月卒業者〉

20. 明石嘉代子 A Study of the Acquisition of Spoken Language in Hearing-
Impaired Children: Using Discourse in the Clinic
聴覚障害児の話し言葉の習得に関する一考察
ークリニックでの談話を用いてー

〈1993 年 6 月卒業者〉

IV. 教育実習報告

1. 教育実習報告

1993 年度には 34 名の学生が参加した。その詳細は次のとおりである。

1) 実習生総数 34 名

男 子 7 名

女 子 27 名

2) 実習日程及び実習校

5 月 10 日～5 月 22 日 練馬区立北町中学校（東京）

5 月 24 日～6 月 5 日 成田高等学校（千葉）

5 月 31 日～6 月 12 日 新島学園高等学校（群馬），鳴瀬町立鳴瀬第二中学校（宮城），同志社高等学校（京都）

6 月 1 日～6 月 14 日 国際基督教大学高等学校（東京），渋谷教育学園幕張高等学校（千葉）

6 月 3 日～6 月 17 日 神奈川県立湘南高等学校

6 月 7 日～6 月 19 日 三鷹市立第七中学校，女子聖学院中学高等学校（東京），神奈川県立鎌倉高等学校，川口市立小谷場中学校（埼玉），南山中学高等学校（愛知），北陸学院高等学校（石川），北海道立大麻高等学校

6 月 9 日～6 月 22 日 明治学院東村山高等学校（東京）

6 月 14 日～6 月 26 日 湘南学園高等学校（神奈川），立教高等学校（埼玉），敦賀市立栗野中学校（福井），大分県立大分舞鶴高等学校

6 月 19 日～6 月 30 日 関東学院六浦中学高等学校（神奈川）

9 月 1 日～9 月 14 日 埼玉県立熊谷女子高等学校，同志社女子中学高等学校（京都）

9 月 6 日～9 月 18 日 千葉県立木更津高等学校

10 月 14 日～10 月 27 日 神奈川県立湘南高等学校

11 月 4 日～11 月 17 日 国際基督教大学高等学校（東京）

3) 実習参加学生学科別内訳

学科 \ 性別	男	女	計
人 文 学 科	1	1	2
社 会 学 科	3	8	11
理 学 科	0	0	0
語 学 科	2	10	12
教 育 学 科	1	5	6
教育学研究科	0	0	0
行政学研究科	0	0	0
理学研究科	0	1	1
比較文化研究科	0	1	1
科目等履修生	0	1	1
合 計	7	27	34

4) 実習生教科別内訳

教科 \ 性別	男	女	計
社 会	4	7	11
理 科	0	1	1
数 学	0	0	0
英 語	2	19	21
宗 教	1	0	1
合 計	7	27	34

2. 教員免許状取得状況報告

1993年3月卒業生422名（学部370名，大学院52名）の内，一括申請により教員免許状を取得した学生は次のとおりである。

1) 教養学部学科別教免取得学生数（聴講生は除く）

学科 \ 種別	取得者実数	中一種	高一種
人 文 学 科	10	10	10
社 会 学 科	6	5	6
理 学 科	3	3	3
語 学 科	15	14	15
教 育 学 科	15	11	15
合 計	49	43	49

2) 教養学部教科別教免取得学生数（科目等履修生は除く）

学科 \ 教科 種別	社会		理科		数学		英語		宗教	
	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一	中一	高一
人 文 学 科	1	1					9	9		
社 会 学 科	3	3					2	3		
理 学 科			2	2	1	1				
語 学 科							14	15		
教 育 学 科		3					11	12		

3) 大学院教免取得生数

研究科 専攻科		種別	中一	高一	中専	高専
教育学研究科	教育哲学専攻					
	教育心理学専攻					
	英語教育専攻				5	5
	視聴覚教育専攻				1	1
行政学研究科	行政学専攻					
比較文化研究科	比較文化専攻					
理学研究科	基礎理学専攻					

※中・高一種免許状取得者は院在籍科目等履修生による